

## お茶大での1年

啓明大学  
パク ミンジュ

4月は生活の変化もあり、目まぐるしく忙しい日々が続き、5月には気分が落ち込む日が増えました。しかし6月頃から徐々に新しい環境に慣れ、この生活そのものを楽しめるようになり、7月にはようやく自分の居場所を見つけることができたと感じるようになりました。このような心境の変化は、多くの留学生が経験する過程であると考えています。

今回の留学を通して、語学力は教室内の学習だけでなく、教室外での交流を通してこそ大きく伸びるものだと実感しました。そこで今後1年間の滞在を予定し、ある程度の会話力に自信がある留学生には、日本人学生が中心となるサークル活動への参加を強く勧めたいです。茶道部に誘ってくれた韓国人の友人、外国人である私を温かく受け入れてくださった茶道部および声劇部の皆さん、そして短い期間ではありましたが、舞台に立って歌う貴重な経験を与えてくださった軽音部の皆さんとの出会いは、かけがえのない思い出として心に残っています。

これまで履修した授業を振り返ると、自然と感謝の気持ちが湧いてきます。特に西坂先生の「第二言語教授法演習Ⅰ」を受講したことをきっかけに、日本語教育や韓国語教育への関心を持つようになりました。それまで私は「人に何かを教える仕事は自分には向いていない」と考えていましたが、この授業は非常に興味深く、楽しみながら学ぶことができ、気がつけば主体的に学習に取り組んでいる自分がいました。

最後に、日本での生活を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。国際課の職員の皆様や寮の管理人の方々のおかげで、安心して留学生活を送ることができました。また、自身の至らない行動によりご迷惑をおかけしたことも少なくありませんでしたが、常に気にかけてご指導くださった担当教員の先生には、深い感謝とともに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

いつも温かく接してくださった加藤先生をはじめ、留学生向け授業を担当してくださった先生方、そして国籍を超えて共に時間を過ごし、多くの思い出を共有してくれた友人たちに、

心から感謝しています。ここですべてのお名前を挙げることはできないのは残念ですが、感謝の気持ちは変わりません。

この1年間の留学生活は、決して私一人の力で成し遂げられたものではありません。この場所で過ごした時間と、出会ったすべての人々が、それぞれの場所で幸せに過ごされることを、心より願っています。